

みぞろが いけ

深泥池

深泥池という池を知っていますか？ 京大から自転車で20分という所に位置するこの池は、氷河期からの遺存生物が多く生息している、非常に貴重なものなのです。生態学的にも興味深いこの池を探ってみました。(apis)



形成は14万年前

深泥池は、見たところ何の変哲もない池です。しかし、実は、1988年に「深泥池生物群集」として国の天然記念物に指定された特別な池なのです。

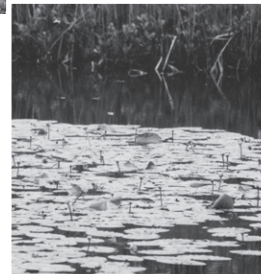
氷河期の自然がそのまま閉じこめられたかのように、本来亜寒帯に生息する植物が暖温帯気候の京都で見られます。池中央部に発達した湿原とその周囲では、北方寒冷地の生物と、京都あたりの気候では普通に見られる生物とが、バランスを保ちつつ共存しているのです。また、興味深いのが湿原を形成している浮島です。夏はメタンガスの発生により浮き、

冬は沈むため、池の様子は季節によって変わります。この浮島はオオミズゴケの遺体が分解しきらずに堆積した泥炭で出来ていて、間に水の層をはさんで、深さ17mにまで及んでいます。この堆積物に含まれていた花粉を分析した結果、深泥池の湿地が、最終氷期以前から14万年もの間、続いてきたと推定されています。

日本で白い花をつけるカキツバタが自生しているのが見られるのも深泥池だけであることなど、不思議な植生も数多く見られます。



◀▼深泥池では亜寒帯に生息するミツガシワ(左写真)と、温帯に生息するヒメコウホネ(同下)が同時に観察できる。



▲ミツガシワと共生しているハナタカマガリモンハナアブ。本州では深泥池で初めて確認された。

人との関わり

深泥池の17mにも及ぶ堆積物を調べるといろいろなことが分かります。現代はアカマツ林が分布していますが、その前は照葉樹林の時代でした。その当時の堆積物にソバ花粉が見つかったことから、縄文晩期に焼畑が始まり、そのため照葉樹林が破壊されたことが分かります。

また、南側の堤防は1500年前作られたものです。周辺に住む農民の手によって農業用水を確保するために建設されました。

このように、深泥池は平安時代の昔から戦前まで、貴重な水源として大切に守られてきたのです。

ところが、近年、車による排気ガスや、水道水流入による水質の変化のため、浮島に発達しているミズゴケ湿原が減少してきています。ヨシや外来生物の侵入も起き、ヤチスギランなど、戦後、絶滅してしまっ生物もいます。

京都には、1000年の歴史を伝える寺社仏閣だけでなく、それよりはるか昔の歴史を伝えるような池もあるのです。

取材協力：「深泥池を守る会」 田末利治さん

(農・3 モンソン)
(自分はそうはなりたくない編)



はみだし
すてーじ

10代最後と20代最初の食事がなか卯やったわー
⇒それは感慨深いですね。